当院におけるフラッシュグルコースモニタリングの使用経験

（医）大田姫野クリニック
堀　友里恵・富永　明博・岡田　理江
角　昌晃・滋野　和志・矢野　彰三

はじめに

フラッシュグルコースモニタリング(以下FGM)は従来の血糖測定とは異なり、日々の指先穿刺がなく皮下に挿入したセンサーで間質液中のグルコース濃度を継続して測定するため、夜間の血糖推移も把握が可能である。2020年5月より、当院でも高齢で血糖測定やインスリン注射がうまくできない患者4名に対しFGMを使用した経験を報告する。

freestyleリブレについて

装置はアボット社製freestyleリブレを使用した。

フラッシュグルコースモニタリング（FGM）「FreeStyleリブレ（フリースタイルリブレ）」は、連続的に血糖値をモニタリングする方法。

従来の血糖自己測定では測定の度に指に針を刺し、血液を絞り出して計測する必要があったが、Freestyleリブレでは、腕に500円玉程度の大きさのセンサーを貼り付け、専用の読み取り装置をセンサーに近づけるだけで最大で2週間、何度でも測定が可能。

大田姫野クリニック

症例1

・70歳代男性

・実母(90歳代)と二人暮らし

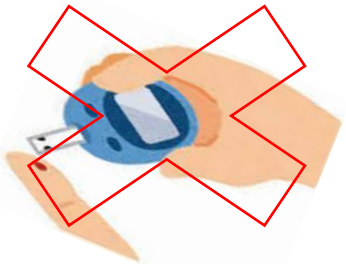
・食事は外食か惣菜

・インスリンは４回/日

・朝夕2回血糖測定の指示があったが、透析日のみしか測定していなかった。

SMBG

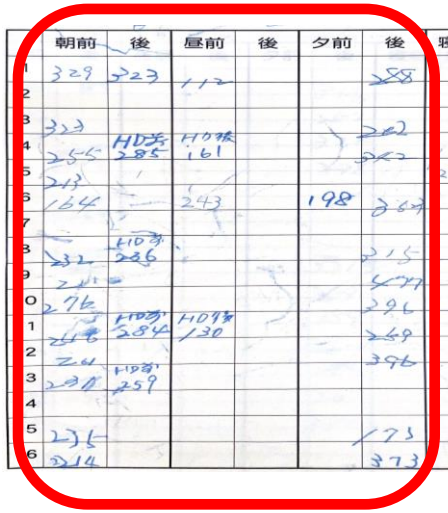
毎回、針刺すのは痛い。

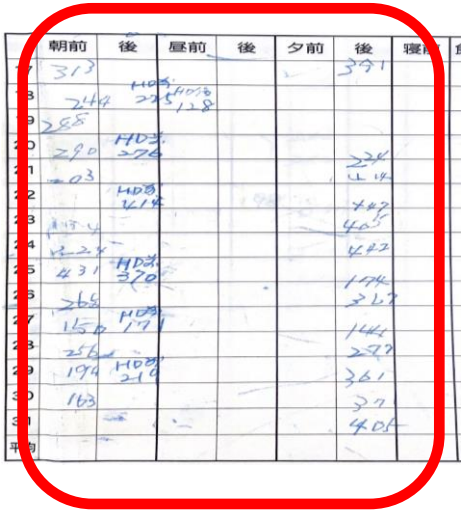


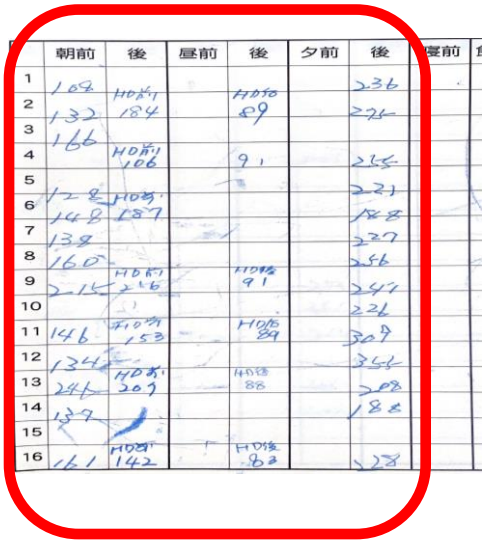
大田姫野クリニック

症例1FGM開始後

指示通り2回の測定が可能になった。







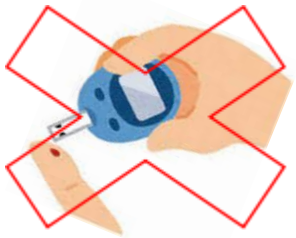
センサーにかざすだけなら簡単に測れる。

SMBGの回数が増え、血糖の推移が分かる！

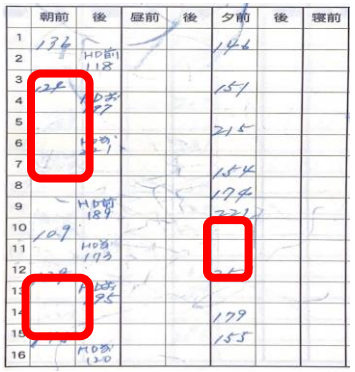
大田姫野クリニック

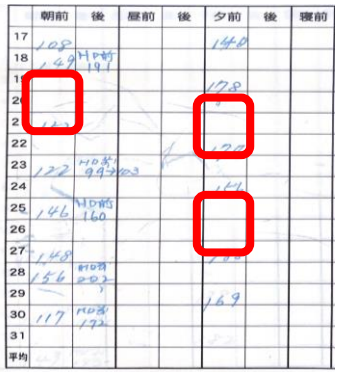
症例2

- 80歳代女性
- インスリン３回/日
- 糖尿病歴15年
- 手の震えがあり、指先穿刺が困難で血糖測定が苦痛

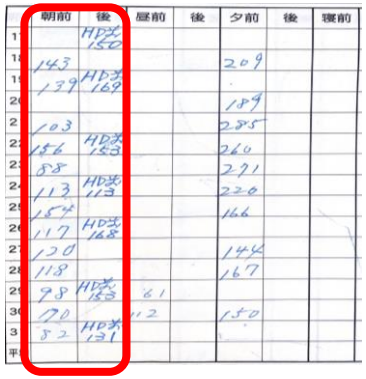


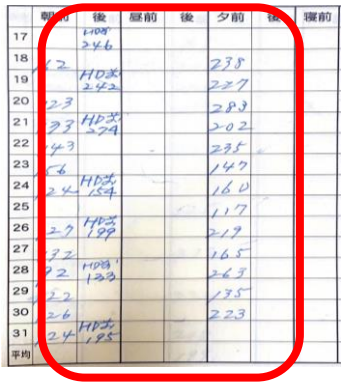
SMBG





FGM





自己穿刺の必要もなくなり、測定が簡易になった。
血糖測定の回数が増えた。

大田姫野クリニック

症例3

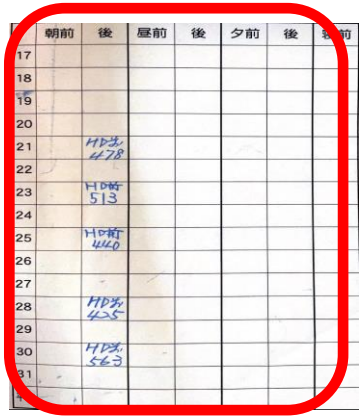
・70歳代男性

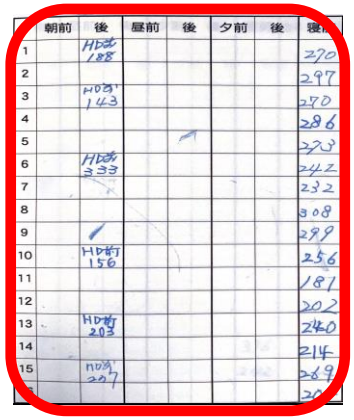
・脳梗塞により片麻痺あり、自己血糖測定は不可能

・実母と妻と三人暮らし

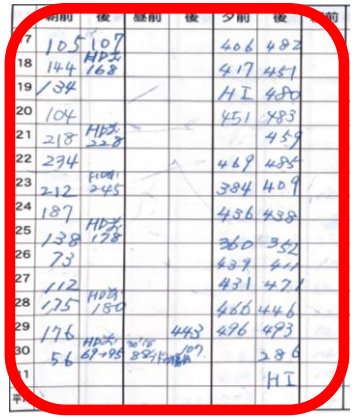
・妻が1日1回血糖測定し、インスリンは１回/日

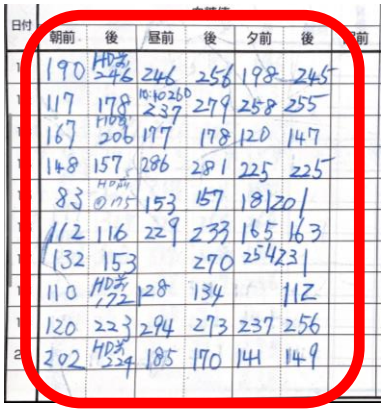
SMBG





FGM





・FGM変更後は服の上からでも測定できるので2回/日測定できる様になった。

・日中の血糖値400～500mg/dlや起床時の血糖値80～60mg/dlと変動が
わかり、インスリンの回数を1回/日→3回/日へ変更となった。

大田姫野クリニック

症例3類天疱瘡による
表皮剥離があった

皮膚が脆弱な患者のセンサー装着場所に難渋した。

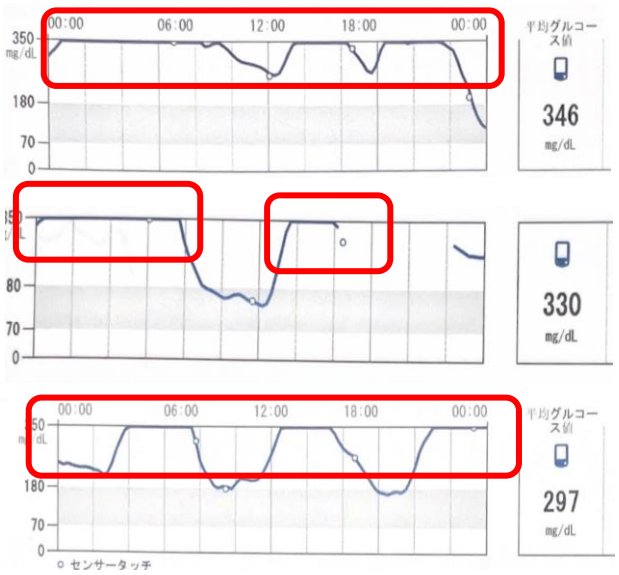
センサーの張り替え時、注意が必要！！

張り替えの際、リムーバー使用し皮膚トラブルに注意し行った。

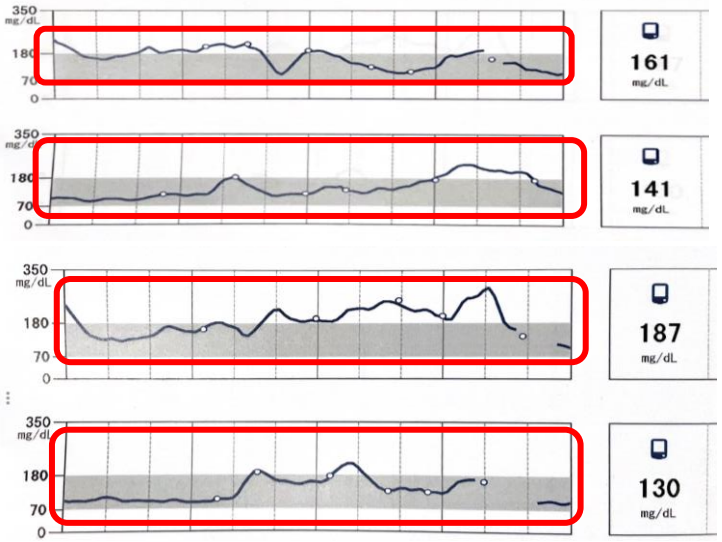
大田姫野クリニック

症例4

- 40歳代女性
- 祖母(100歳)・両親・妹の5人が同居
- 食事は実母が作っている
- インスリンは4回/日
- 食欲を抑える目的でビクトーザ使用
- DW:90.5kg　増加:4～6kg



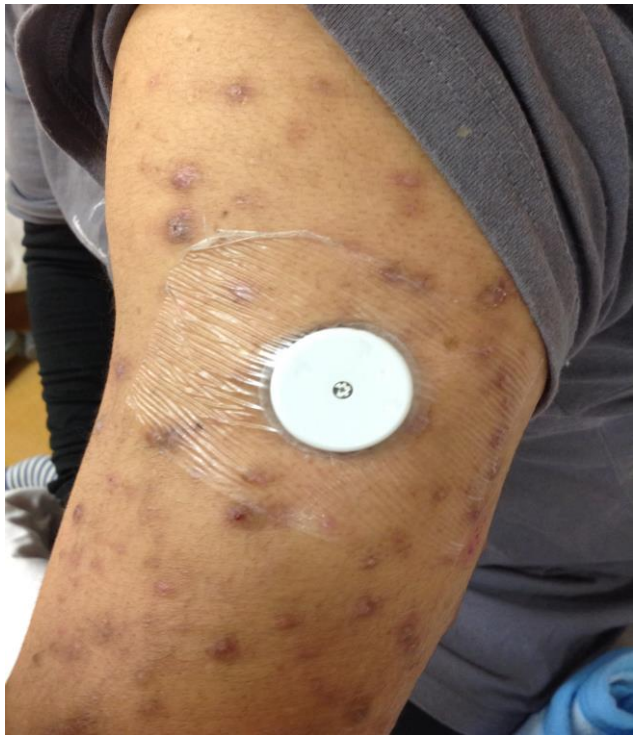
インスリン単位
調整



透析後のグルコース上昇が分かった。

大田姫野クリニック

症例4センサーが2日で剥がれることがあった



センサーの装着部位をぶつけたり、服にひっかかったりして剥がれることがあった。

パーミロールで保護することで装着期間を延ばすことができた。

※FGMの値に影響がないか、パーミロール貼付前後で血糖測定し、血糖値に変化がないことを確認した。

大田姫野クリニック

まとめ

- FGMを使用することで服の上からでも容易に測定ができ、患者の負担軽減と測定回数増加につながった。
- グルコースの推移が把握できたことでインスリン単位の調整ができた。
- 皮膚が脆弱な患者には、センサーの装着場所に難渋した。
- センサーの部位をパーミロールで保護することで装着期間を延ばすことができた。

大田姫野クリニック

結語

- FGMを使用することで自己血糖管理を改善することが期待できる。

大田姫野クリニック

中国腎不全研究会
COI開示

筆頭発表者名
堀　友里恵

演題発表に関連し、
開示すべきCOI関係にある企業などはありません。